

会議録

会議の名称	平成30年度 第7回移動支援のあり方を考える勉強会
開催日時	平成30年12月18日（火）午前10時30分から12時10分まで
開催場所	柳沢第三市民集会所
出席者	<p>【委員】 稲垣会長、土谷委員、鈴木委員、町田委員、中静委員、長谷川委員、島田委員、大安委員、金成委員、金子委員、佐野委員</p> <p>【事務局】 松本都市計画課長、広瀬主査、亀井主事</p> <p>【関係部署】 高齢者支援課、協働コミュニティ課、生活福祉課</p>
内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 事務局における整理について 3 今後の予定について 4 移動手法の選定に向けた考え方の整理について 5 実証実験における移動手法（案）について
会議資料の名称	<p>資料1：第6回移動支援のあり方を考える勉強会会議録</p> <p>資料2：今後の予定について</p> <p>資料3：移動手法の選定に向けた考え方の整理について（まとめ）</p> <p>資料4：移動支援の実証実験</p> <p>資料5：移動支援 実証実験ルート（案）</p>
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p><u>1 開会、2 事務局における整理について</u></p> <p>○事務局： 前回の勉強会を8月28日に開催し、約4ヶ月ぶりの勉強会となる。</p> <p>第6回勉強会では、色々な制度の側面を中心に、多くの資料をご提示したが、皆様がすぐにご理解いただける量や内容ではなかったと反省している。</p> <p>勉強会の後に複数の委員から、資料の内容についてのご質問をいただき、まずは皆様のご理解、ご認識を、ある程度同じ状況にすることが必要であると考え、これまでご質問いただいた方々への対応をさせていただいたところである。</p> <p>また、それと平行して、事務局では、他の自治体の事例等の研究を進めるとともに、その中で、改めて、この地域の移動支援についてのご要望を整理したいと考え、市民委員の皆様にはアンケート調査にご協力いただいた。</p> <p>第6回の勉強会では、制度の面から4つの手法をご提示したが、他の自治体の事例研究や皆様から頂いたアンケート調査結果を踏まえ、この地域が、道路が狭く坂道が多いという地域特性があること、また、買物を目的とする移動支援策の実現を早急に求められていることを考慮し、事務局で改めて整理を行った。</p> <p>その結果、第6回の勉強会で皆様から支持が多かったボランティアによる運送については、地域で支える交通という点では非常に有効な手法であると考えているが、担い手の育成や確保、手法の構築に時間を要する等の課題が大きいと判断している。</p> <p>そのため、本日は移動支援の実現性等を考慮し、タクシーを用いた具体的なご提案をさせていただく。</p>	

このご提案内容に皆様から概ねのご賛同をいただけるようであれば、平成31年度に実証実験を行い、改めて課題等の整理を行ったうえで、本格運行を目指していきたいと考えている。

本日も、皆様から様々なご意見をいただきたい。

○会 長： 事務局からも説明があったとおり、日本の移動に関する制度は非常に入り組んでいる。そのため、これまで時間をかけ、委員に対し丁寧な説明をしてきたということだと思う。

数十年前に武蔵野市でムーバスが誕生し、かなり話題を呼んで全国各地でコミュニティバスが導入された。しかし、実際に真似をしてみても本当にその地域にとって正しいことなのか分からない。事実、色々な課題が各地で出ている。

先ほど他自治体の事例を研究したとのことであったが、本当に学ぶべきところは、既に出来上がっているバスの走り方やタクシーの使い方ではなく、それに至るまでのプロセスである。そのプロセスにどのように地域の実際のニーズを捉えて、実現させたのかということが大切である。

100円のコミュニティバスを導入し、失敗している事例が多いが、その理由としては、成功事例をそのまま真似してしまっているところにある。ムーバスでさえも、ひとつの路線は採算がとれているようだが、全体としては、採算が取れておらず、そういう状況であっても武蔵野市は政策的に運行させている。

色々な自治体が、様々な手法を取り入れているが、それが最終形ではない。これから高齢化して、人口が減少していく中で、同じ方法を続けていくことがいかどうかの議論が今後されるのではないかと思う。そのため、常に更新しながら交通施策は考えていかなければならない。

戸田市、川口市、蕨市の3市が合同で福祉有償運送の協議体を立ち上げた。福祉有償運送とは、NPO法人が重度の障害をお持ちの方や高齢者の方を登録制で移動支援を行うものである。ただ、川口市の中にいくつかNPO法人があるが、片や乗れないくらい予約が殺到し、片やほとんど利用者がいないというような状況がある。これは、市民のニーズを市が上手く汲み取れていない事例のひとつであり、市民に対してしっかりと情報提供ができていない。

最初に決定されたことが、ずっと続くわけではない。これから、実証実験を行い、本格運行に進むということであったが、それが最終的なものではない。

実際に移動支援をやってみて、それをボランティアの方にご協力をいただく方法はないかなど、発展的な議論がこれから展開されていくのではないかと思う。ただ、まずはきちんとできる方法を考えて、実証実験を行い、地域のニーズを取った上で、本格運行を考えていくべきだと思う。

3 今後の予定について

○事務局

【資料説明の要旨】

- ・実証実験を実施するためには準備が必要となる。
- ・実証実験を行うにあたり、まずは地域公共交通会議で協議する必要がある。

- ・その後、地域説明会や意向調査を行う予定
- ・平成31年度は実証実験の実施とその効果の検証を行う。

○会 長： 地域公共交通会議は法定の協議会である。コミュニティバスだけではなく、移動支援のようなものについても総合的に議論する場である。その会議で、本地域ではこのような方法でやっていくということを承認することになる。

○委 員： 地域公共交通会議の場で異議があった場合の対応の仕方、アンケート調査の配布枚数について教えてほしい。

○事務局： 法令等で問題がある場合には事務局で整理した上で、改めて皆様にご意見をいただく必要があれば、郵送等でやり取りをさせていただく。大きな修正がないようであれば、事務局の方で実証実験の実施に向け準備を進めさせていただく。

○委 員： 地域公共交通会議で承認をいただく必要があるのか。

○事務局： 実証実験をするためには道路運送法の許可が必要で、運輸局に申請するとき地域公共交通会議での承認が必要となる。

○会 長： 今回の移動支援については、地元をしっかり入って議論されているので、地域公共交通会議に周知するといったことが主になる。地域のために、地域で考えたことを否定するようなことはまずない。
法的に見て、明らかに間違いがある場合などは意見があると思う。

○委 員： やり方がこちらの方がいいといった意見は出るのか。

○会 長： 地域の中でしっかりと議論されていることなので方向が変わるといったことはない。

○事務局： アンケート調査については、平成29年の夏頃に自治会を中心に実施させていただき、約2,000部配布し、600部程度のご提出があった。自治会のご協力が大きく、回収率としては高かった。

○委 員： 回収率を上げる努力をしないといけない。

○事務局： 来年度は、この取組みについて市報に折込みをして地域に周知したいと考えている。また、地区会館などにも置く予定であるが、委員の皆様にご協力いただき、より多く配布していただきたいと考えている。

○会 長： 私も研究などでこのような調査をすることがあるが、大体2割ぐらいいけばいいほうである。地域のためにやっているアンケート調査であることを口コミで広げていくことも大切である。

4 移動手法の選定に向けた考え方の整理について

○事務局

【資料説明の要旨】

- ・これまでの勉強会においても、時間帯、乗りやすさや使いやすさ、対象者、集まれる場所の候補地といった内容については議論をしていたが、本勉強会の前に市民委員から改めてご意見いただき整理したものである。
- ・左側が平成29年度に実施したアンケート調査やこれまで勉強会でご提示した資料からキーワードを整理し、右側に委員からいただいたご意見を整理した。
- ・事務局では、これらの意見をもとに、できる限りご要望に沿った実証実験の手法を検討した。

5 実証実験における移動手法（案）について

○事務局

【資料説明の要旨】

- ・来年度予定している実証実験は、他自治体の事例等を研究するなかで、道路が狭いという特性を持った本地域において、移動支援の実現の可能性やできる限り早急に本地域に対し支援を実施していくという観点から、事務局において検討した手法についてご提案する。
- ・ルートや利用方法を中心に資料4、5について説明

○会 長： 車両はタクシーを利用するが、タクシーと違う点は乗る場所が決まっていることと降りる場所の区間が決められていることである。また、運賃形態も違う。

普通のタクシーと区別はつくのか。

○事務局： マグネットを車体に貼って、移動支援の車両であることが分かるような方法を考えている。

○会 長： タクシー事業者から何か補足の説明はあるか。

○委 員： 乗車場所で車をどのくらい待たせればいいのかという点がある。ひとりでも乗っていれば発車していいのか、それとも5分くらいはその場で待っていた方がいいのか、そのあたりは利用者がどう思うかといったことにもよる。乗車場所で待てば待つほど、本数が減ることにはなる。

柳沢地域ルートであるが、無線で行き先を途中で変えることになるので、そのあたりをご理解いただけるかどうかとも気になる。

西武柳沢駅ルートは、青梅街道から地域内に入ってきたときに上り坂になっているので、自転車が勢いよく降りてくることを考えると、安全上、坂の途中では降車しないほうがいいと思う。

○委 員： 公共交通の場合は、法律上、停めてはいけないといったことがあるのか。

○委 員： 普通のタクシーであれば停めないということはないが、実証実験では降りる人の順番によっては、外側の人が出たり入ったりすることも考えられるの

で、安全上停めない方がいいと思う。

また、田無駅南口の市役所通りは、雨の日はかなりお迎えにくる車がいるので停車できない場合もあると思う。

実証実験なので、希望の場所で降りられなかったこともアンケートに書いてもらうのもいいと思っている。率直にご意見をいただいて課題を見つけていけばいいと考えるが、運用上は安全面に配慮してやりたいので、運転手が判断したことについてご理解をいただきたい。

また、降りる順番も乗るときに調整するのか、降りる際に調整するのか、もう少しルール化してほしい。

○会 長： 停車場所については、道路交通法の制約や警察の意見、それからプロの運転手としての判断といったところで決まってくると考える。

○委 員： 普通のバスのように決まった時刻に発車するほうがいい。ただ、乗りたい人が走ってきたりするのをちょっと待ってもらえるような判断をしてもらえるのならしてほしい。

○事務局： 基本的には、10時から正午の2時間、14時から16時の2時間の間でタクシーが行き来するような形である。ご意見のように15分ごとといった時間を決めてしまうよりも、実際は短い時間で行き来ができれば、より多くの本数を走れる場合も出てくる。そのあたりを利用される方たちがどう思うかである。

また、タクシー車両のため、4人しか乗れず、決めた時間に待っていても乗れない場合もあるので、できる限りたくさんの方にご利用いただけるよう本数を多く運行させる方法で提案したい。

○委 員： ある程度一定の時間を決めておかないと利用しにくいのではないか。

○委 員： 4人が乗った状態で発車しないのもそれはそれで問題がある。揃ったら出発するというのであれば定時制にはならない。

○委 員： 想定の実行時間は15分くらいか。

○委 員： 時間帯にもよるが、雨になると極端に時間がかかる。

○会 長： この方法については、定時制はあまり現実性がないと思う。バス事業者としてなにか意見はあるか。

○委 員： バスは基本的に決まった時間で運行するものなので、時間が決まっていないう15分間をお客さんが待ってられるかどうか気にはなる。

○委 員： このような乗り方をしたことがないので、実証実験をやってみなければ分からない。

○委 員： こういったやり方は東京都内で初めてだと思う。場合によっては、複数人

で普通のタクシーに乗った方が安い場合もあるので、今回示された方法は移動手段の中の一つと捉えた方がよい。今回の移動支援に全て依存するのではなく、選択肢のひとつなのではないかと思う。

○委員： 週2日とあるが、できれば週3日の方がいい。体調が悪かったりすると出られない日もあるので、週3日くらいあれば選択肢が広がると思う。

田無駅での買物は北口が主だと思うが、降りるのは南側になっているのはなぜか。

運賃も安ければ安いほどいいが、はなバスを考えたときに200円くらいがいいなと思う。

○事務局： 実証実験の中で、まずは今回ご提示した条件の結果について検証したいと思っている。

ただ、既存のタクシー車両を使うため、何台も一度にお借りできないこともあり、各ルートで一日2台ぐらいを曜日ですらした形で運行したいと考えている。

北口を終点にしていない理由としては、踏切があり時間がかかるのと北口ロータリーは、他のタクシー事業者も乗り入れている関係で、降車については問題ないと考えているが、他の事業者が待っている状況で、実証実験とはいえ、優先してお客さんを乗せることは難しいと考えている。そのため、田無庁舎でゆっくり乗り降りしてもらおうほうがいいと考えている。

運賃については、昨年度のアンケート調査結果から200円から300円ぐらいまでであると考えているが、ご意見のとおり、はなバスと比べると割高感はある。ただ、通常のタクシーを利用して田無駅から柳沢の伏見通りあたりまで大体1,000円から1,200円ぐらいかかることを考えると4人で利用しても200円から300円程度にはなるので、経費の面も踏まえ300円とさせていただいた。

運賃等については、実際の利用率やアンケート調査の結果で今後の課題として考えていきたい。

○委員： 実証実験やアンケート調査の結果によっては回数が増えることもあるということか。

○事務局： 今回はタクシー車両を使うが、もしかしたらたくさんご利用いただいて、皆様のご要望でもっと大きな車両を使った方がいいといったことも今後は考える場合もでてくるかもしれない。

ただ、実証実験としてすぐに実施することを考えると、今ある車両をタクシー事業者からお借りして実施するので、乗車人数であったり、時間であったり、今回ご提示したような条件となってくる。

○会長： この週2回とはそれぞれのルートで曜日をずらすということか。

○事務局： はい。

○委員： 昨年度実施したアンケート調査では、買物の頻度は週2.5回といった結果が

見られた。それであれば2回ぐらいが妥当ではないかと思う。

○会 長： 実証実験をやった結果、ものすごく使われているということであれば市としても増やすことも考えるとのことである。

○委 員： 実証実験を実施するところまでこられたのは一つの大きな成果だと思う。
資料4の2ページ目のところで利用者カードの事前登録が5月頃となっているが認知度がそんなにあるのかなと思う。この地域の対象者にあらかじめ配ってはどうか。どのように使うかは個人が考えることだと思う。

○会 長： 妊娠中の方や3歳未満のお子様連れの方に渡すのは難しいが、少なくとも65歳以上の方にあらかじめ先に渡してはどうかといったご意見かと思う。

○事務局： 今後地域説明会を丁寧にやっていくつもりであり、ご提案いただいたことについては事務局でも検討させていただく。

○委 員： 説明会も限られた人しか来ないと思う。

○事務局： 地域に対してはお出かけ支援通信をお配りしており、ご提案いただいた内容も含め、周知方法については検討させていただく。
今回ご参加いただいている委員の皆様の地域への働きかけも重要と考えているので、その点についてはご協力をお願いしたい。

○委 員： 対象者を65歳以上の高齢者に限ったのはなぜか。

○事務局： 利用者カードを発行する際に、65歳以上であれば介護保険被保険者証、妊娠している方などについては、母子保健手帳を確認し、手続きを行うことを想定している。

○委 員： 60歳以上の高齢者であっても外出に困っている方もいるので、もう少し幅を広げてみてはどうか。

○委 員： 65歳未満の人でも申し出があれば、そのときに確認するような運用でもいいのではないか。あとは検診などのときにポスターを貼ってはどうか。

○会 長： 3歳未満のお子様連れの方ということになるとお子さんがいない方でも連れていけば対象となってくるのではないか。あまり細かなことを言うてしまうとそういった議論になるので柔軟な運用をしてみてもどうか。
障害をお持ちの方は対象にはならないのか。

○事務局： 今回利用する車両が、車椅子が直接乗り入れられない車両となると考えると、車椅子を折りたたんでご乗車できる方に限られると思う。
障害をお持ちの方については、福祉サービスによる運送もあるので、上手く使い分けていただきたい。

- 委員： タクシー券もあるので、そちらをご利用する方のほうが多いかもしれない。
- 委員： 骨折などして一時的に動くのが難しい人にも、利用者カードは発行できないのか。
3歳未満の子供に利用者カードを発行して、そこに大人が付き添う形でもいいのではないか。
- 事務局： あくまで実証実験期間中の対象者であるため、限定的にしている。車両が一日2台程度で限られた時間しか運行できない。本来であれば対象者を制限するようなことはしたくないが、利用者が多すぎて、全く利用出来ない状況もよくないと考えている。
実証実験では利用の実態を見させていただき、対象者については本格運行をする際に改めて検討していくことだと考えている。
- 委員： 利用者カードは実証実験のためだけのものか。
- 事務局： はい。
- 委員： 買物の目的地は田無駅の北口だと考えている。今回示された案では田無庁舎が終着地点となっており、色々な条件から検討したのだと思うが、今回せっかく実証実験を行うのであれば、やはり北口で乗り降りできるようにしたほうがよい。
また、ルートの中で、文化通りは狭くて交通量が多いので避けた方がいいとは思いますが、向台中央通りも通過交通が多く狭いのではないかと。特に、ビッグAのある田無工業高校西の交差点は曲がってくる車が地域内にどっと入ってくるので、そちらのほうが通行は難しいのではないかと。
もっと違ったルートを通して田無駅の北口にいけるのではないかと。
- 委員： 田無駅の踏切で車が並んでしまって武蔵境通りが渋滞になるときがある。
- 事務局： 先ほどのご質問にもあったように、駅の北口については、ロータリーで降りていただくことは可能であると考えている。ただ、駅からお乗りいただく場合に、今回の実証実験のタクシーではない、一般のタクシーがいる状況で優先的にご利用いただくのが難しいため、田無駅の北口は乗車場所には向かない。安全にお乗りいただく場所として田無庁舎に一度行かなければならなくなると踏切を越えるため、時間がかかってしまう。できるだけ時間内の運行本数を確保したいと考えると、踏切は渡りたくないと考えている。
ルートについては、乗車場所と降車可能エリア以外は、一般のタクシーのようにある程度状況に応じたルートで運行してもらおうよう現在タクシー事業者と調整をしている。ルート案については、分かりやすくお示すために実線を引きしているところもあるが、バスのように必ずそのルートを走行しなければならないということではない。
- 委員： 文化通りは脇から出てくる自転車や郵便局などから出てくる人などがいて

危ない。単なる道路の狭さだけではない要因もある。

○会 長： 先ほど事務局から話しがあったようにルート案の実線の部分については必ずしも通らなければならないということではないが、基本ここをルートとして考えているということであった。
一方で遅れの話であるとか、安全性の話であるとか、色々出てきたのでそのあたりは整理してほしい。

○事務局： 今回実証実験に協力をいただくのは、タクシー事業者である。常日頃このエリアを運転しているプロの方のご意見からまずは整理したいと思っている。

○委 員： 乗車場所まで自転車で行った場合は自転車が止められるのか。

○事務局： 自転車に乗れる方は田無駅まで直接行ってしまうと思うが、公共施設を乗車場所としているのは、駐輪スペースのことも考慮した上で選んでいる。

○委 員： 運賃で小学生以下無料とあるが、バスとは異なるがいいのか。

○事務局： 今回はそのように考えている。

○会 長： 私は周知が一番大変だと思っている。そのあたりは、やはり地域の方のお力が非常に大切だと思っているので、ぜひご協力いただきたい。

○事務局： 意向調査の調査表等を作成するにあたり、委員の皆様のご意見について今後も伺いたいと考えており、郵送等でのやりとりとさせていただくつもりである。

○事務局： 来年度の実証実験の前後には、委員の皆様からご意見等いただく機会を作らせていただきたいと考えている。勉強会のほうを来年度も継続させていただきたいと考えているが、皆様よろしいか。

～ 全員異議なし ～

来年度の勉強会は、3、4ヶ月に一度くらいになると思う。お集まりいただく際には、改めてご連絡する。

ぜひまたご協力をお願いしたい。

○委 員： 住民へ実証実験する際に説明会をすることだが、いつくらいになるのか。

○事務局： 5月くらいを予定している。

○委 員： いずれにしても来年度の話か。

○事務局： 手続き等を考えるとその予定である。意向調査の説明会は、来年の2、3月を予定している。

○会長： 本年度は全部で7回の勉強会を行なった。最初にワークショップを行って、実態をしっかりと整理したと思うが、そういったプロセスは大切であったと考えている。今後も説明会等で色々なご意見をいただくと思うが、それらを踏まえて検討していければと思う。

今後も私は皆さんとこの地域のために考えていきたいと思っているのでよろしく願いしたい。

それでは、これをもって勉強会を終了させていただく。

以上